

# 『おだやかな革命』×「生活クラブでんき」

## 都市と地方を結ぶ再生可能エネルギー

2017年秋公開のドキュメンタリー映画『おだやかな革命』では、事例のひとつとして生活クラブの再生可能エネルギー※への取り組みが登場します。再生可能エネルギーによって都市と地方がどうつながるのか、渡辺智史監督と生活クラブの電力会社(株)生活クラブエナジーの代表取締役である半澤彰浩専務理事に対談いただきました。

### 取材のきっかけは、 風車「夢風」

**渡辺** 生活クラブとは、前作『よみがえりのレシピ』上映の際、生活クラブ東京に協力いただいたことがきっかけで出会いました。今作『おだやかな革命』は地域エネルギーを題材としています。撮影にあたり、再生可能エネルギー事業に取り組む消費者団体のひとつとして、生活クラブが風車を建てていることを知りました。

**半澤** 生活クラブ風車「夢風」のことで、「夢風」はCO<sub>2</sub>を排出する化石燃料や誰かの犠牲で成り立つ原子力での発電ではなく、エネルギー自治のスタートとして、2010年に建設の検討が開始されました。また、生活クラブ神奈川の40周

年記念事業としても取り組み、生活クラブ首都圏4単協(東京・神奈川・千葉・埼玉)合同で2012年に秋田県にかほ市(以下、にかほ市)に建設しました。

**渡辺** 最初の取材は2015年8月に行われた「生活クラブ風車視察&交流ツアー」※2でした。

**半澤** 渡辺さんに映画撮影・取材という形で同行いただきました。これまでも毎年8月に組合員がにかほ市を訪問し、風車に登ったり地域の方と交流したりしてきました。

**渡辺** 取材時は夢風ブランド(詳細は4ページの報告会もありました)。

**半澤** 夢風ブランドは風車建設をきっかけに、にかほ市の生産者と生活クラブが共同で作ったオリジナルブランドです。組合員が企画・開発に関わり、生産者と共に開発をすすめています。

### 映画を通して 伝えたいこと

**半澤** そもそも『おだやかな革命』を撮影しようと思われたのはなぜですか？

**渡辺** 2011年3月11日の東日本大震災後に上映されたドキュメンタリー映画『幸せの経済学※3』を観たときに、今のグローバル経済によって生まれた社会的矛盾の根本にあるものをどうやって解決するのか？と考えさせられました。前作『よみがえりのレシピ』では、「食をローカル(地域)に取り戻す」ことをテーマにしていますが、「エネルギー」も同様に行きたいのであれば社会的にインパクトがある！と感じ2014年から撮影・取材を始めました。

**半澤** そうだったんですね。『おだやかな革命』というタイトルが良いなあ。予告編を観て、再生可能エネルギーを通して人々がつながり、地域で暮らし続けていくという、地域社会づくりの様子が描かれていると感じました。

**渡辺** そうですね。今作を撮影して、地域経済が豊かにならないと持続可能な

社会にならないと感じました。今、中山間地域の多くが人口減少や合併などで、今まで通りの暮らしを続けていけるかわからない状況にあります。そんな中、地域の自然資源を使ってエネルギーを生み出すという再生可能エネルギー事業をきっかけに「あたりまえの生活」を続けていけるんだということをこの映画を通して伝えたいです。

**半澤** 観た人が元気で勇気が出て、これからの社会に希望を提起する映画ですね。

### 都市と地方が共に生きる

**渡辺** 私が暮らす山形県鶴岡市は生活クラブが提携している遊佐町と近く、取材に行つて「生活クラブ」の名前を出すのとみなさんとても丁寧に対応してくださいます。

**半澤** 遊佐町とは遊YOU米や野菜の産地として提携して45年ですね。月光川を守るための「せつけん運動」など、様々なことをいっしょに取り組んできた同志です。2017年5月から太陽光発電所を建設中(2019年1月供給開始予

定)で、農作物だけではなく電気の出産地提携もスタートします。

**渡辺** 遊佐町と生活クラブのようなお互いを支え合う幸せな関係はずっと続いていってほしいですね。

**半澤** (株)生活クラブエナジーの提携先は遊佐町の他にも「一般社団法人 大磯エネソフト」「会津電力(株)」など様々な当地エネルギー事業とつながっています(全国40ヶ所・2017年3月時点) 今後は「電気のプロducerとの交流会」も開催したいと考えています。

**渡辺** それはいいですね！自然に囲まれて暮らしている人の声に耳を傾けることは、都会の人にとって学びとなりますね。生活クラブを取材して、生活クラブは都市と地方が共に生きていく上でこれからのモデルとなるような取り組みをしていると感じました。

**半澤** 「生活クラブでんき」を選ぶことで、神奈川県に暮らす私たちが地方で生み出された再生可能エネルギーを購入してつながっていくことができます。コンセントの先が見える電気を使うことで、未来を変えていきたいですね。



渡辺智史  
ドキュメンタリー映画監督

1981年、山形県鶴岡市生まれ。2012年、在来作物の魅力を描いた映画『よみがえりのレシピ』を全国各地300カ所で開催。香港国際映画祭、ハワイ国際映画祭で招待上映。



半澤彰浩  
生活クラブ神奈川 専務理事  
(株)生活クラブエナジー 代表取締役  
一般社団法人 グリーンファンド秋田 代表理事

1982年、生活クラブ神奈川入協。2009年よりエネルギー政策に携わる。

#### 映画『おだやかな革命』に登場する地域事業

エネルギーの地産地消による地域再生をめざし、活動しています。

- 石徹白農業用水農業協同組合 (農業用水路を利用した小水力発電) 岐阜県郡上市白鳥町石徹白地区
- 会津電力(株) (小規模分散型の太陽光発電) 福島県喜多方市
- 飯館電力(株) (太陽光発電) 福島県相馬郡飯館村
- 村楽エナジー(株) (間伐された木材を利用したバイオマス燃料) 岡山県西粟倉村
- (株)生活クラブエナジー (風力・太陽光・バイオマスなどで発電) 秋田県にかほ市、山形県遊佐町



撮影する渡辺監督



生活クラブ風車「夢風」

※1再生可能エネルギー

風・水・太陽光・バイオマス(動植物などから生まれた生物資源)など、自然界にあるものを利用して生み出したエネルギーのこと

※2生活クラブ風車視察&交流ツアー

(秋田県にかほ市にて) 2015年8月1〜2日  
主催:生活クラブ首都圏4単協  
参加:38人(神奈川から8人)  
風車の視察や生活クラブのエネルギー政策についての学習会を行い、にかほ市の方と交流し、相互理解を深めることを目的に開催。

※3『幸せの経済学』(2010年制作)

監督:ヘレナ・ノーバーク・ホッジ  
制作:The International Society for Ecology and Culture (ISEC)

あらすじ

世界では国の豊かさを測る指標として「GNP(国民総生産)」や「GDP(国内総生産)」などが使用され、どれだけ経済成長したかということが「豊かな国」の定義だと信じられてきた。しかし、便利で快適に生活できる反面、コミュニティの伝統的な暮らしが崩壊し、かつてはそこになかったはずの「新たな貧困」が生まれるようになったことも事実である。本当の豊かさとはなにか？それを、今こそ考える時ではないか。行き過ぎたグローバル経済から脱却し、持続可能で幸せな暮らしをどう作っていくべきなのか。そのヒントは日本の伝統文化の中にもあるのではないか。この映画はその気づきを与えてくれる。